

狩野先生を偲んで

山 上 武

昭和56年、私は当時国内研修をされていた久野先生の代講で、本学の非常勤講師を勤めていた。秋頃から、私が本学の専任教員となる話がでて、狩野先生とお会いしたのはそのことについて東1号館の久野先生の研究室においてが始めてであった。狩野先生はどちらかというと小柄で物腰が柔らかく、私に丁寧に対応してくださり、その後も私が本学に移籍する件につき大層お世話になったのである。先生は、話ぶり等は極めて明快であり、テキパキと用件を進めていかれる様子が印象に残っている。

昭和57年4月私は本学の専任教員となったが、その頃及びその後も何かにつけ学内のことに不案内な私は先生に色々とお教えいただき眞に感謝している。昭和58年4月先生は経営学科主任となられ、ついで昭和59年8月には学習院の常務理事に就任され、御多忙の様子であったが、それでもキャンパスで或いは研究棟の廊下などでお会いした時などの雑談のあい間にも色々と有益な話をお伺いしたものである。

久野先生、狩野先生と私の三人が経営学科の会計エリアの教員だったので、大学院の入試や修了の口述試験などでは殆ど必ず三人は一緒であった。そういう場で、久野先生は格調の高い、どちらかというときびしい質問をされるのに比べ、狩野先生はあたたかい態度でしかも的確な質問をされることが多かった。両先生のすぐれた口述試験の場に何度も同席できたことは私にとって大変勉強になり、また楽しい思い出である。狩野先生の御専門は、主として原価会計・管理会計の領域であり、私とはかなり違った分野なのであるが、そういった口述試験の場などで先生の会計学全般についての深い学殖の一端にふれる思いがすることがしばしばあったのである。

私が平成2年9月から1年間海外研修をさせていただいたとき、本来私が担当すべきであった修士課程の学生の御指導を先生にお願いした。必ずしも御専門の分野ではなかったにもかかわらず快く御受けくださったのである。帰国後、その学生の立派な修士論文をみて先生の良い御指導に深く感謝したものであった。

狩野先生の御不調を知ったのは平成5年7月のことであった。入院先の御見舞いにいったところ、思っていたより御元気な様子で、夏休み後は出校される旨話されていたので私もすっかり安心したのであった。事実先生は秋頃には出勤されており、会議等にも出られていたので、予後を気をつければもう心配はないのであろうと思っていたのである。ところが平成6年初めごろから再び体調をくずされたとの話をきき、一寸不安に思っていたところ、まったく突然に5月21日、前日に死去されたことを知ったのであった。私としては職場の同僚というよりは良き先輩であった先生の御逝去は、残念としかいいようがない。先生と交わした数々の会話、先生の談笑ぶりなどを思い浮かべるにつけ、今となっては先生の御冥福を心より祈るのみである。

(1994. 6. 19)